

Yamakado News Letter



作業道予定地の先行伐採



伐倒した灌木は現場で粉砕



盛り土が多い場所は路肩補強 (仕上げでは全て土に埋まる)



計画距離の約8割まで到達

平成29年度の滋賀県協働提案制度事業で助成を受けて、資材運搬を目的とした作業道の開設を行なっています。8月9日より開設作業を開始しました。これは山門水源の森の生物多様性を保全していく上で必要な獣害防止柵の設置、またアカガシ林の整備を行なう目的で活用する作業道です。アカガシ林の整備はアカガシの確保が祭りの継承で大きな課題となっている、大津祭保存会とNPO法人「大津祭曳山連盟」との協働で行なっていくことが予定されています。

現在、獣害はササユリなどの山野草や湿原の希少植物に止まらず、ブナ林の下層植生であるササ藪が消滅するなど、広範囲に広がっています。その対策として防獣ネットの設置や、日々その破損の有無を巡視しています。並行して有害捕獲も行なっています。これらは作業車が通れる道がないので、全て徒歩での作業になり、手間や時間を多く要します。全ての保全作業における防獣対策の割合は7～8割に及ぶと考えます。そのことから、作業道がつくことで獣害対策やアカガ

シ林整備の充実と作業労力の軽減が期待されています。

作業道は目的地を守護岩まで延ばし、ササ藪の防獣対策にも活用することを最終目標としています。当面はアカガシ林に接する観察道（第二分岐と天然更新試験地の中間辺り）に接続することを目標にしています。距離にして約6～700mです。今年度計画分としてそのうちの200mを開設しますが、9月12日現在で170m地点まで進みました。



丸太を運搬してくれた生徒達 6/8



丸太の薪割り作業 8/23



チップパーによる薪粉碎 9/11



付属湿地の除草 8/31



シカ生体捕獲用にネット箱罠設置 8/30



箱罠内の餌を食べるシカ 9/7



北部湿原脇観察コース丸太橋の補修 8/28



ミニ湿地再生作業 9/4

その他の活動

今月は作業道づくりを主に行なって来ましたが、その他にも間伐材のチップづくり、付属湿地の除草、シカのGPS行動調査に向けた生体捕獲の取り組み、コースのメンテナンス、湿原のミニ湿地再生などを行いました。日々のネット巡視やシカ対策も欠かさず行なっています。

中でも6月8日に岐阜市立青山中の生徒138名などが運んでくれた間伐材丸太がずっと楽舎前に山積みになっていましたが、合間合間に割木にして、それらをチップに粉碎する作業もなんとか今月中に終わることができました。

今後はチップの袋詰め作業、またそれらを養生用にコースに散布していく予定です。これらは比較的軽作業で永原小の保全体験や保全体験型ツアーなどを通じてたくさんの人に協力をして頂いていますが、是非会員の皆様の協力もお願いしたいと思います。

また、この森は中央に湿原があり希少な湿地の動植物が生息・生育しているのが特徴の一つです。しかし、現在は湿原保全の観点から、一般入山者は湿原の

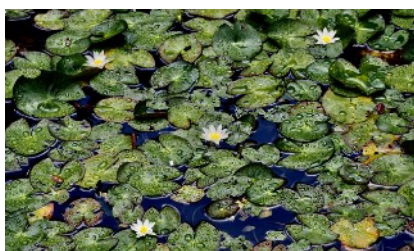
中を観察することはできません。その代替として楽舎の付属湿地を整備管理していますが、実際の湿原の様子を間近で観察したいとの声もよく聞きます。そこで北部湿原に沿う観察道に接する一区画にミニ湿地を再生して、場所を限定しつつも間近で観察できるような区画を整備しているところです

今月の森の様子

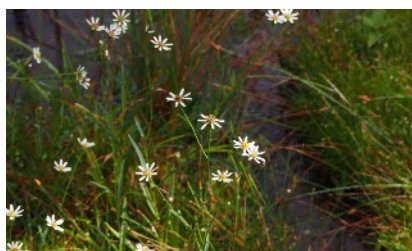
今年は例年に比べ、キノコの発生が少ないように思いますが、大発生はこれから後でしょうか。付属湿地では様々な花が順次開花しています。下記画像はいずれも付属湿地です。



開花ピークを迎えたサワギキョウ



まだまだ開花数が多いヒツジグサ



最盛期も終わりつつあるサワシロギク